

インキ攪拌用エアツール

MIXスパイラル



サイズ

全長：376mm

全幅：253mm

質量：1160g

無負荷回転数：580rpm

エア消費量：0.058 m³(Normal)/min

ホース口金取付サイズ：RC1/4

フレキシソインキは、水溶性ベヒクルの添加剤や混合溶剤などの様々な成分が混合されたものなので、静置、室温及び気温の変化、印刷機の特長などにより、分散する可能性が大きいのです。全成分を攪拌することにより、それらが混合し、インキの低粘度及び流動性など、インキの平滑性、安定性を持たせる効果（インキコントロール）は、最も必要な要素です。

十分に攪拌されていないインキは、泡が発生したり、インキ缶の底に溜まってしまふといった問題を引き起こします。更に、インキの高粘度化によって、インキの原単位が悪くなる原因として問題化されています。これらの諸問題において、「インキを攪拌し、良い状態をキープする」とこと、「残インキの解消」を目的として開発したエアツールです。

特長

- インキ缶に簡単に取り付けることができます。
- インキ全体を常に攪拌することで、小さな泡の滞留をストップさせます。
- インキ缶の底に残る高粘度のインキ残りが無くなり、原単位の低減に繋がります。
- 冬場のインキの高粘度化を防ぐ効果があります。
- 完全なエアツールですので、水に濡れても漏電する心配はありません。

商品についてのお問い合わせは下記にご連絡くださいませ。

明日を見つめて 明日を拓く



明昌株式会社

〒532-0011 大阪市淀川区西中島 1-14-10

Te l:06-6304-8340 Fax:06-6305-6788

ask@meisho-c.co.jp

www.meisho-c.co.jp

MIXスパイラル

テスト1. 泡立ちについて（使用インキ：DF260 墨 8.3 秒）

写真①稼働前のインキの状態。

写真②稼働1時間MIXスパイラルを投入した状態。

写真③稼働1時間攪拌をしなかった状態。

写真②と③を比較すると、確実に②は泡立ちが軽減されていることがわかる。



テスト2. インキ缶底の高粘度インキ溜まりについて

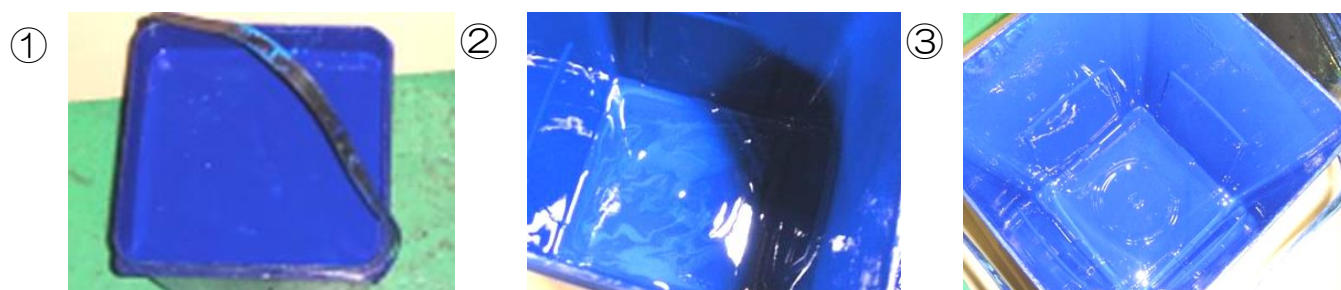
（使用インキ：DF181 紺藍 8秒程度）

写真①攪拌前のインキの状態。

写真②攪拌せずに、インキを取り出した状態。白系のインキ溜まりが確認できる。

写真③MIXスパイラルで攪拌後、インキを取り出した状態。

写真②と③を比較すると、高粘度インキが十分に攪拌されたことがわかる。




こんな使い方も出来ます！

夏と冬のインキは気温の変化で粘度上昇しやすく、コントロールが難しいです。そんな時は、夏は凍らせたペットボトルを、冬は熱湯を入れたペットボトルを右の写真のように入れて、MIXスパイラルで攪拌すると、インキの液温が安定します。



商品についてのお問い合わせは下記にご連絡くださいませ。

明日を見つめて 明日を拓く

 明昌株式会社

〒532-0011 大阪市淀川区西中島 1-14-10

Te l : 06-6304-8340 Fax: 06-6305-6788

ask@meisho-c.co.jp

www.meisho-c.co.jp